【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】　（小学校用）

都道府県名	福　岡　県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	飯　塚　市　立　飯　塚　小　学　校								
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数
学級数	１	２	２	２	２	２	――	１１	
児童数	３５	４５	４４	５３	４１	４８	――	２６６	２０

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

個が生きる学習の創造
－評価を生かした活動構成の工夫を通して－

２．研究内容と方法

(1)　実施学年・教科

○１、２、４、６年生（国語科）
　他の教科に比べて個人差が大きく、授業時数も多く、全教科の基礎となる教科であると考えるため
○３、５年生（社会科）
　自ら調べたりまとめたり、基礎・基本を発展させやすい教科であるため。

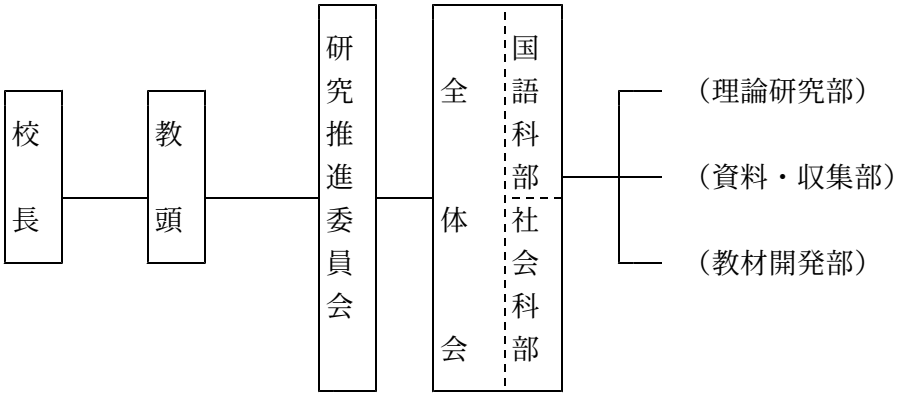
(2)　年次ごとの計画

平成15年度	○　テーマ 　活動構成の中に評価を位置づけ、その中で適切な場を工夫することで個が生きる学習を目指す。 ○　研究の見通し 　評価を生かした活動構成の工夫を通して、単元の各段階及び１単位時間を「もつ」「たかめる」「あじわう」と構成し、その中で指導内容を明確にし形成的評価を取り入れ個を生かす場を工夫すれば、確かな学力を身につける学習が創造できるであろう。 ○　研究の内容・方法 ・活動構成のあり方を明らかにする。 　もつ（達成課題の明確化）→たかめる（基礎・基本の定着）→あじわう（基礎・基本獲得のよさの感得） ・指導内容の明確化を行う。（基礎・基本の分析、評価基準の作成） ・指導方法の工夫をする。 （形成的な評価を取り入れた指導、発展的な学習及び補充的な学習、コース別の学習） ・指導体制及び指導形態を工夫する。 （少人数学習指導）（習熟度別学習指導）（複数教師による学習）

	○　テーマ 　基礎・基本の習得を中心に据えた活動構成の中に評価を位置づけ、さらに習熟度別学

平成16年度	習で個が生きる学習を目指す。 ○　研究の見通し 　基礎・基本の獲得→定着活用と学習活動を工夫し、それに合わせて学習過程を単元の各段階及び１単位時間を「もつ」「さぐる」「たかめる」「あじわう」と構成し、その中で指導内容を明確にした形成的評価を取り入れ、個を生かす場を工夫すれば、確かな学力を身につける学習が創造できるであろう。 ○　研究の内容・方法 ・児童の学力の実態を把握する。 ・活動構成のあり方を明らかにする。 　もつ（達成課題の明確化）→さぐる（基礎・基本の獲得）→たかめる（基礎・基本の定着）→あじわう（獲得した基礎・基本の活用） ・指導内容の明確化を行う。（基礎・基本の分析、評価基準の作成） ・指導方法の工夫をする。 （形成的な評価を取り入れた指導、発展的な学習及び補充的な学習、コース別の学習） ・指導体制及び指導形態を工夫する。 （少人数学習指導）（習熟度別学習指導）（複数教師による学習）(専科制の導入)

(3)　研究推進体制



Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

○　活動構成の工夫として、学習形態をグループ別学習にすることで子どもたちの学習への興味・関心が持続できた。

社会科３年生単元「店ではたらく人々の工夫」で、子どもたちの興味・関心に合わせて「商店街」「コンビニ」「スーパー」と調べる対象を選択できるように活動構成を工夫したことで、子どもたちの情意面は、学習が進むにつれて、高まっていくことができた。（図１参照）７の場面では、発展的学習を行った場面であるが、どの子どもも高い数値を示している。これは、本学習で身につけた力が発展的学習で有効に使われたからだと思われる。

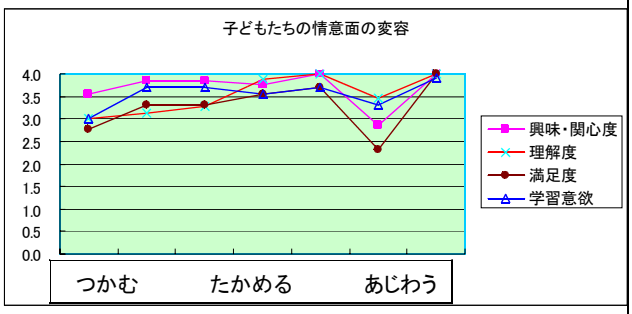


図１　子どもたちの情意面の変容

○　複数の教師で、子どもたちを少人数にして　学習を行うことで、細かく子どもたちを評価・支援することができた。そのことで子どもたちのつまずきに対処でき、学習の定着が図れた。図２は、国語科２年生単元「動物のひみつクイズ大会をしよう」でのＹ児の学習に応じた教師の支援である。このように個に応じた評価・支援を繰り返すことで、Ｙ児は、Ｃ評価からＡ評価へと変容していった。

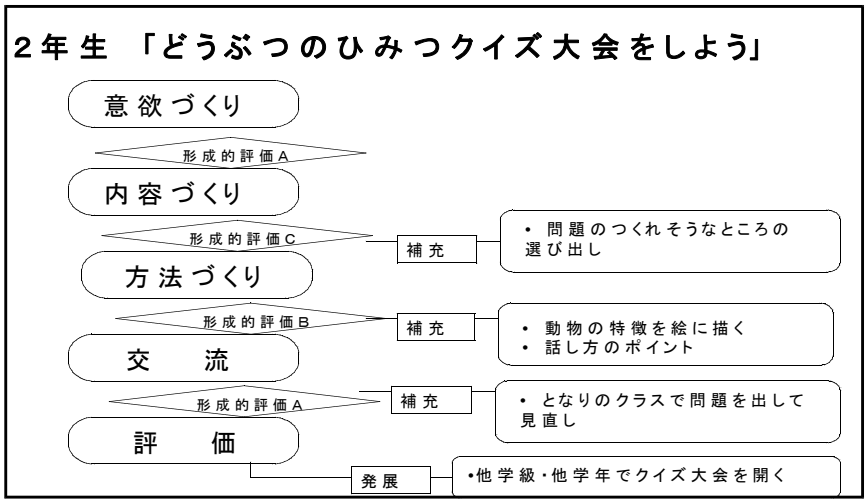


図２　Ｙ児の変容

２．今後の課題

○　各教科における基礎・基本のとらえ方の徹底を図るとともに、その把握の仕方を工夫する。
○　具体的な学力の伸びやつまずきを数値化し明らかにする。

Ⅳ　学力等把握のための学校としての取組

２月・６月・10月　児童学力実態調査
（児童の学習定着の状況や学習への取り組み方について把握するため）
国語科、社会科、算数科におけるペーパーテスト、学習意欲及び取り組み方のアンケート
５月　　標準学力検査　（児童の学力を客観的に把握するため）

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

○　発展的学習及び補充的学習の研究成果を内外に問う。
・平成１５年　７月４日　　第１回福岡県学力向上フロンティアスクール実践交流会実施。
・平成１５年11月７日　　第２回福岡県学力向上フロンティアスクール実践交流会実施。
・平成１６年１月30日　第３回福岡県学力向上フロンティアスクール実践交流会実施予定。
○　平成１５年度研究のまとめの作成予定（３月中旬）

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること、（複数チェック可）

【新規校・継続校】　■１５年度からの新規校　□１４年度からの継続校
【学校規模】　□６学級以下　■７～１２学級　□１３～１８学級　□１９～２４学級　□２５学級以上
【指導体制】　■少人数指導　■Ｔ．Ｔによる指導　■一部教科担任制　■その他
【研究教科】　■国語　■社会　□算数　□理科　□生活　□音楽　□図画工作□家庭　□体育　□その他
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　■有　□無